

## NGO インターン・プログラム 完了報告書

団体名	NPO 法人 アクセプト・インターナショナル
育成期間	令和7年6月1日～令和8年3月31日
氏名	ピリ カニャーキーソー 荘平

**1) インターン期間を通じて得たもの**

本インターンを通じ、紛争・テロ影響地域における事業運営の実務を通じて、以下の知識・知見と能力を獲得することができた。

**・複雑な社会課題への構造的理解と実務対応力**

ケニアの最高セキュリティ刑務所におけるテロ関係受刑者のリハビリテーション・社会復帰事業の事業運営に継続的に従事する中で、テロ・紛争といったケニアや東アフリカ地域の抱える課題の構造を理解することができるようになった。加えて、こうした難しい環境の中で特に取り残されている受刑者などの人々を支援する上では、短期的な視点や単一のアイデアではなく、多角的な視点から問題を捉え解決策を考える必要性を学んだ。特に、現場の制約(安全性、制度、関係者間の関係性や動向など)を踏まえながら、目指すべき目的を実際に現場レベルで実現していくプロセスに関わり、様々な困難や最悪のケースなど様々なことを同時に考えながら、最も適切な解決策を考える力を少しずつつけることができた。

**・ステークホルダー調整およびファシリテーション能力**

ケニアの複数の刑務所における刑務官、ケニア刑務所サービスなどの政府機関、現地スタッフ、国際ドナーなど多様な関係者との連携を通じ、一つひとつの活動を進めていく上での調整力および事業運営を円滑に進めていく上でのファシリテーション能力を高めることができた。また、テロ関係受刑者たちとの直接的な対話・スキルトレーニングのファシリテーションを行う機会も得ることができたことで、改めて彼らの社会復帰に向けた支援において、彼らの前向きな姿勢を生むためのコミュニケーションのとり方や、支援プログラムにおいて彼らを激励しながら一緒に学びを進めていくファシリテーションの仕方などを学んだ。

**・包括的なプログラム設計能力**

アクセプト・インターナショナルの構築してきた RPA モデル (Re-define/Prepare/Action) に基づき、ケアカウンセリング、職業訓練、ライフスキル教育、宗教対話を統合したリハビリテーションプログラムの設計・実施に関与し、テロ関連受刑者たちが社会に戻っていく準備を進める上では、包括的な支援の重要性を理解した。

**・データに基づく評価・支援改善アプローチへの理解**

イギリス政府との協働事業において、テロ関係受刑者のリハビリテーション・社会復帰に向けた支援ニーズを理解するためのニーズ評価ツールの導入、およびこうした評価

に基づいて受刑者たちの変化を継続的に確認していくケースレビューの実践に携わることを通じて、それぞれの受刑者たち抱える強み・社会復帰に向けた悩みや不安・さらなる支援において考えるべき課題を具体的に可視化し、データに基づいて支援アプローチを調整していく必要性についても理解できた。特に、イギリス政府や他国におけるこうしたアプローチのあり方も広く理解することができ、今後の支援において適切に活用していこうと考えている。

#### ・広報・対外発信および組織運営に関する理解

事業の継続性や社会的信頼を担保する上で、広報・対外発信の重要性についても実務を通じて理解を深めることができた。具体的には、ニュースレターの作成を通じて寄付者や関係者への説明責任を果たす情報発信に関与するとともに、国際規範関連のアドボカシーイベントや対話イベントの運営に携わる中で、事業の意義や成果を適切に伝えることの重要性を学んだ。また、こうした広報活動は単なる情報発信にとどまらず、資金調達や社会的理解の醸成、組織の信頼構築と密接に関わっていることを実感し、現場実施・事業設計・広報が一体となって初めて事業が成立するという、組織運営全体に対する理解を深めることができた。

## 2) 今後の課題

今後、ケニア事業においてより高度な業務を進め、さらに他国への展開にも貢献していく上では、下記の2点についての能力を強化していく必要があると考える。

#### ・多様なステークホルダーをより前向きに巻き込む能力の強化

テロ・紛争などの複雑な社会課題の解決や刑務所などのアクセスが困難な場所・支援対象に対して活動を行う上では、政府機関・地域コミュニティリーダー・現地の人々など、これまで関わってきた人々よりもより多様な主体を前向きに巻き込み協力を得ていく必要がある。今年度の取り組みを通じて、長期的な視点を踏まえた上で多様な人々と友好的な関係を築き、それぞれの立場や強み・弱みなどをしっかりと見出して巻き込んでいく力はまだまだ不足していると感じた。この点は、今後も現場の最前線で活動していく身として向上させていく必要があると考える。

#### ・対人支援・対話能力の深化

支援対象者のテロ関連受刑者との直接的な対話やスキルトレーニングの場において、背景や価値観の違い、視点の違いなどを前提とした関係構築および信頼形成のスキルをさらに高める必要がある。今年度の活動を通じて、支援を開始する際の関係構築についてはある程度適切なあり方を学び実践することができたが、長期的にリハビリテーション・社会復帰の過程を伴走する支援者として、彼らを時間をかけて前向きに後押ししていくコミュニケーション能力については、さらに強化する必要がある。

#### ・プロジェクトマネジメント能力の強化

事業のスケジュールを踏まえた上で、様々なステークホルダーと調整しタスクを管理し、

活動をやり切る、目標を達成する、という点では自分自身の能力・経験不足を実感した。現地スタッフのタスク管理や、会計の管理、各種報告書の作成など、多様な業務を同時並行的に実施しながら事業の目標を達成し成果をあげていくこと、しつかりと説明責任を果たすことなど、今後も引き続き学んでいく必要がある。

### 3) 今後の進路について

今後はアクセプト・インターナショナルのケニア事業において、引き続き事業運営に携わっていく予定である。特に、刑務官が主導して受刑者のリハビリテーションを進めていく方法の高度化と、各受刑者の状況やニーズに合わせた個別支援の定着を推進していきたい。また、他アフリカ地域への展開を視野に入れ、再現性のある運営モデルの確立および実践知の発信に取り組む。

### 4) 団体コメント欄

本インターンは、ケニアの事業地における事業運営補佐、プログラム設計・実施の補佐に主体的に関与し、当法人の事業推進に貢献した。特に、受刑者を含む様々な関係者との関係構築、問題解決において失敗を恐れずに様々な試行錯誤を前向きに行う姿勢を見ることができたことなどを評価する。今後は、本人も認識している課題に対する打ち手をしつかりと実践していきつつ、少しずつ担当できる所掌を増やしていくことを期待する。